

# アジア・アフリカ学術基盤形成事業 平成24年度 実施計画書

## 1. 拠点機関

日本側拠点機関：	大阪大学
(ザンビア) 拠点機関：	ザンビア大学
(南アフリカ) 拠点機関：	フリー・ステート大学
(タンザニア) 拠点機関：	国際関係センター

## 2. 研究交流課題名

(和文)：南部アフリカにおける「平和のオアシス」形成に向けた研究ネットワークの制度化

(交流分野： 政治学 )

(英文)：Towards the development of an 'oasis of peace' through the institutionalization of a research network in southern Africa

(交流分野： Politics )

研究交流課題に係るホームページ：<http://www.saccps.org>

## 3. 採用期間

平成23年4月1日 ～ 平成27年3月31日

(2年度目)

## 4. 実施体制

### 日本側実施組織

拠点機関：大阪大学

実施組織代表者(所属部局・職・氏名)：学長・平野俊夫

コーディネーター(所属部局・職・氏名)：国際公共政策研究科・准教授・

HAWKINS, Virgil

協力機関：なし

事務組織：大阪大学国際交流オフィス国際交流課国際交流推進係、  
大阪大学経済学研究科・国際公共政策研究科事務部

**相手国側実施組織**(拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。)

(1) 国(地域)名：ザンビア

拠点機関：(英文) University of Zambia (UNZA)

(和文) ザンビア大学  
コーディネーター (所属部局・職・氏名) :  
(英文) School of Humanities and Social Sciences  
Professor・PHIRI, Bizeck  
協力機関: (英文) Zambia Open University (ZAOU)  
(和文) ザンビア・オープン大学  
協力機関: (英文) Copperbelt University (CBU)  
(和文) コッパーベルト大学

(2) 国 (地域) 名: 南アフリカ  
拠点機関: (英文) University of the Free State  
(和文) フリー・ステート大学  
コーディネーター (所属部局・職・氏名) :  
(英文) Department of Political Science  
Senior Professor・SOLOMON, Hussein  
協力機関: (英文) University of Pretoria  
(和文) プレトリア大学

(3) 国 (地域) 名: タンザニア  
拠点機関: (英文) Centre for Foreign Relations  
(和文) 国際関係センター  
コーディネーター (所属部局・職・氏名) :  
(英文) Centre for Foreign Relations  
Lecturer・SHAHARI, Riziki  
協力機関: (英文) なし  
(和文) なし

## 5. 全期間を通じた研究交流目標

度重なる武力紛争と人道危機を経験した南部アフリカ地域において紛争を收拾し、持続的な平和と発展を確保することは、最も重要で喫緊の基盤的研究課題の一つといえる。本事業は、平和国家として平和の尊さを知り、武力による問題解決の愚かさを知る日本側研究者が主導し、日本と南部アフリカを結び、紛争解決と平和の持続化に高度な知的貢献のできる研究者の育成とネットワーク化を研究交流目的とする。具体的には、ザンビアのパートナー大学と密接に連携し、ザンビアに南部アフリカ地域ワイドで紛争と平和に関する研究拠点となる「平和のオアシス研究所」(仮称)を設立し、

それと大阪大学大学院国際公共政策研究科 (OSIPP) をハブとする日本側の紛争研究コミュニティとをつないだ学術基盤を形成することを構想している。この学術基盤を通じ、日本側は学術的知見を南部アフリカへの提供するほか、紛争の現場に生きる南部アフリカの研究者との直接的・継続的な知的交流で、若手を含む日本側研究者の研究の深化も期待できる。

南部アフリカでは未だ研究交流・発信の機会が限定的で、長年の紛争と平和活動から得た知識・経験・教訓が豊富に存在するが、相互に共有されていない。ここで地域の研究者間のネットワーク化が制度化できれば、これらの「知的財産」の共有が一気に進む潜在性がある。この点、ザンビアは、まさに「平和のオアシス」として、周りを紛争経験国に囲まれながらも平和と政治的安定を確保しており、地域の若手を含む研究者を結ぶハブとなる格好の環境を備えている。日本の研究者にとっても、ザンビアは、アフリカについて学ぶ上で、紛争の現場情報へのアクセスや現地の研究者との交流のため有益な拠点として機能しうる。

日・ザンビアの両拠点間で共同研究（平成 23 年度には「紛争と仲介」、24 年度には「平和維持・強制」、25 年度は「平和構築：持続的な平和と発展の実現」をトピックに予定）を進め、実際の研究会合に加え、新規に編集するオンライン・ジャーナルやウェブを通じた成果の検討や公表を進める。

持続的な平和と発展に向けて日・南部アフリカ間の高度な知の集積と交換に弾みつけ、「平和のオアシス」を南部アフリカ・ワイドに広げることに日本が手を貸すことができたならば、大きな知的成果と言えよう。

## 6. 前年度までの研究交流活動による目標達成状況

本事業の最終的目標のひとつは南部アフリカ地域ワイドで紛争と平和に関する研究拠点となる「平和のオアシス研究所」（仮称）をザンビアに設立することであるが、平成 23 年度にはザンビア大学及びザンビア・オープン大学を中心に設立準備室を開設することを目標としていた。平成 24 年 2 月、ザンビア・オープン大学の副総長の合意のもと、無事設立準備室を開設した。ここでは、参加研究者および事務補佐が研究所のための計画を進め始めている。ザンビアの協力機関であるザンビア・オープン大学が中心となるが、ザンビア側のコーディネーターが監督となっている。

学術的観点からの目標としては、共同研究とセミナーを通じて、南部アフリカの国々がこれまで経験してきた紛争への仲介・和解の試みに関する分析を行い、その成果と課題を明らかにし、まとめることを目標にしていた。平成 23 年 9 月、ザンビアの首都ルサカで南部アフリカにおける仲介・和解というテーマでセミナーを開催した。共同研究の参加研究者の多くがセミナーに向けて研究を推め、12 人が学術論文を用意した。これらの論文は多様な側面から仲介・和解を捉え、ミクロからマクロレベル、地域内および地域外からの教訓などが分析の対象となった。この研究成果を発信する

ため、オンライン・ジャーナルを設置した。ジャーナルの第1巻第1号が現在準備中であり、平成24年4月に出版される予定である。もちろん、研究成果を他の学術誌に掲載している（もしくは掲載する予定）場合もある。さらに、参加研究者がインターネットを通じて、研究の成果をインフォーマルに公開し、リアルタイムに交流ができるために、ブログ（Southern African Peace and Security Blog）を設置した。

若手研究者養成という観点からの目標としては、平成23年度の派遣研究者の内、2人（日本[1-6]と南アフリカ[3-4]から各1名ザンビアに派遣する研究者）を若手研究者とする予定であった。ところが、年度の途中からさらに2人の若手研究者（マラウイ[2-16]とタンザニアに所[4-2]に所属する研究者）を巻き込むことに成功し、2人ともザンビアでのセミナーに参加した。セミナー後の共同研究のために南部アフリカ内に派遣した研究者もこの2人の若手研究者であった。また、研究者が派遣先の大学で講演会を開くことを徹底し、日本においても、南部アフリカにおいても、派遣がある際、学生が対象となった講演会が開かれ、日本及び南部アフリカ内の若手研究者の南部アフリカにおける紛争と平和の問題に関する意識・関心を高めることに貢献した。

## 7. 平成24年度研究交流目標

平成23年度には紛争と平和に関する研究拠点となる「平和のオアシス研究所」(仮称)に向けて、ザンビア・オープン大学を中心に設立準備室を開設した。平成24年度の目標としては、この設立準備室及び地域のネットワークを通じて、研究所のための具体的な計画（施設及び活動計画）を完成させることである。さらに、資金調達のためのプロポーザルを作成し、研究所の実現に向けてドナー候補にプロポーザルを提出することも目標とする。また、研究所のみならず、地域のネットワーク全体のあり方と資金調達を議論する必要もある。本事業終了後のネットワーク維持・拡大のための具体的な措置も検討する。

学術的観点からの目標としては、共同研究とセミナーを通じて、南部アフリカの国々がこれまで経験してきた平和維持・平和強制の試みに関する分析を行い、その成果と課題を明らかにし、まとめる。また、平成24年度には、オンライン・ジャーナル第1巻第1号・2号まで公表する。オンライン・ジャーナルは学術論文のみならず、政策分析、書評も含む。さらに、平成23年度に始めたブログを続行し、平成24年度には少なくとも地域内外から20のエントリーを公表する。

若手研究者養成という観点からの目標としては、平成24年度の派遣研究者の内、4人を若手研究者とする。現在の予定では、日本、南アフリカ、アンゴラ、コンゴ民主共和国から各1名の若手研究者を他国へ派遣する。これらの若手研究者は共同研究およびセミナーに参加する。また、研究者の派遣先の大学で講演会を開くことを通じて、日本及び南部アフリカ内の若手研究者の南部アフリカにおける紛争と平和の問題に関する意識・関心を高めることも目標とする。

## 8. 平成24年度研究交流計画状況

### 8-1 共同研究

—研究課題ごとに作成してください。—

整理番号	R-1	研究開始年度	平成24年度	研究終了年度	平成24年度		
研究課題名	(和文) 南部アフリカにおける平和維持・平和強制 (英文) Peacekeeping and Peace Enforcement in Southern Africa						
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) ホーキンス・ヴァージル・大阪大学・准教授 (英文) Hawkins, Virgil・Osaka University・Associate Professor						
相手国側代表者 氏名・所属・職	Phiri, Bizeck・ザンビア大学・教授 Solomon, Hussein・フリー・ステート大学・教授 Shahari, Riziki・国際関係センター・講師						
交流予定人数 (※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入のこと。)	① 相手国との交流						
	派遣先	日本	ザンビア	南アフリカ	タンザニア	マラウイ (ザンビア側)	計
	派遣元	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>
	日本 <人/人日>						
	ザンビア <人/人日>			1/5		1/5	2/10
	南アフリカ <人/人日>		1/5				1/5
	タンザニア <人/人日>						
	アンゴラ (ザンビア側) <人/人日>			1/5			1/5
	コンゴ民 (タンザニア側) <人/人日>		1/5				1/5
	合計 <人/人日>		2/10	2/10		1/5	5/25
	② 国内での交流					0/0	人/人日
日本側参加者数	4名 (12-1 日本側参加研究者リストを参照)						
(ザンビア)側参加者数	12名 (12-2 相手国(ザンビア)側参加研究者リストを参照)						
(南アフリカ)側参加者数							

6名	(12-3 相手国(南アフリカ)側参加研究者リストを参照)
(タンザニア)側参加者数	
5名	(12-4 相手国(タンザニア)側参加研究者リストを参照)
24年度の 研究交流活動 計画	<p>参加者は平和維持・平和強制の概念・課題、あるいは南部アフリカの地域における平和維持・平和強制の事例を中心に研究を進める。研究は多様な側面から平和維持・平和強制を捉え、ミクロからマクロレベル、地域内および地域外からの教訓などが分析の対象となる。南部アフリカの紛争の際、平和維持部隊が派遣される場合もあるが、逆に南部アフリカ諸国の国軍が平和維持部隊として他の地域に派遣されているので、本年度の研究は両側を対象とする。</p> <p>この研究成果を発信するため、オンライン・ジャーナルを出版する。ジャーナルの第1巻第1号及び2号を出版する予定である。研究成果を他の学術誌に掲載している(もしくは掲載する予定)場合もある。さらに、参加研究者がインターネットを通じて、研究の成果をインフォーマルに公開できるブログ執筆(Southern African Peace and Security Blog)も予定している。</p>
24年度の 研究交流活動 から得られる ことが期待さ れる成果	<p>南部アフリカの国々がこれまで経験してきた平和維持・平和強制の試み(受け入れる側としても、派遣側としても)に関する分析が行われ、その成果と課題が明らかになり、まとめられることである。具体的な成果としては、オンライン・ジャーナル(Southern African Peace and Security Studies)がホームページを通じて2回(第1巻第1号・第2号)出版される。また、参加研究者が研究成果をインフォーマルに公開するブログも少なくとも20回分のエントリーが掲載される。</p>

## 8-2 セミナー

—実施するセミナーごとに作成してください。—

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業「南部アフリカにおける平和維持・平和強制」 (英文) JSPS AA Science Platform Program “Peacekeeping and peace enforcement in southern Africa“
開催期間	平成 24 年 9 月 21 日 ～ 平成 24 年 9 月 23 日 (3 日間)
開催地 (国名、都市名、会場名)	(和文) ザンビア、ルサカ、会場は未定 (英文) Zambia, Lusaka, Venue undecided
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) ホーキンス、ヴァージル・大阪大学・准教授 (英文) Hawkins, Virgil・Osaka University・Associate Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (□日本以外での開催の場合)	Phiri, Bizeck・ザンビア大学・教授

### 参加者数

派遣元	派遣先	セミナー開催国 (ザンビア)	
		A.	B.
日本 〈人/人日〉	A.	2/10	
		0/0	
		0/0	
ザンビア 〈人/人日〉	A.	0/0	
	B.	0/0	
	C.	12/36	
南アフリカ 〈人/人日〉	A.	2/8	
	B.	0/0	
	C.	0/0	
タンザニア 〈人/人日〉	A.	2/8	
	B.	0/0	
	C.	0/0	
マラウイ、ボツワナ、アンゴラ、モザンビーク (ザンビア側) 〈人/人日〉	A.	4/16	
	B.	0/0	
	C.	0/0	
ジンバブエ (南アフリカ側) 〈人/人日〉	A.	1/4	
	B.	0/0	
	C.	0/0	
コンゴ民 (タンザニア側) 〈人/人日〉	A.	1/4	
	B.	0/0	
	C.	0/0	
合計 〈人/人日〉	A.	12/50	
	B.	0/0	
	C.	12/36	

- A. セミナー経費から旅費を負担
- B. 共同研究・研究者交流から旅費を負担
- C. 本事業経費から旅費を負担しない（参加研究者リストに記載されていない研究者は集計しないでください。）

セミナー開催の目的	平成 23 年度の共同研究のテーマである「南部アフリカにおける平和維持・平和強制」(Peacekeeping and Peace Enforcement in Southern Africa) の成果をまとめ、発信することをセミナーの目的とする。具体的には、平和維持・平和強制の概念・課題、あるいは南部アフリカの地域における紛争仲介・和解の事例について理解を深めることである。また、「平和のオアシス研究所」の設立に向けて協議を行い、研究所のあり方及び活動の計画をまとめることも目的とする。		
期待される成果	南部アフリカ及び日本の紛争・平和研究者の間の交流が行われる。平和維持・平和強制の概念・課題、または南部アフリカの地域における平和維持・強制活動及び南部アフリカ諸国による平和維持・強制活動の事例について議論が行われ、理解が深まる。南部アフリカ内のネットワーク拡大のための議論も行われる。また、「平和のオアシス研究所」の設立に向けて、施設・活動計画案がまとめられる。		
セミナーの運営組織	拠点機関となっているザンビア大学の監督のもと、協力機関であるザンビア・オープン大学は日本側のコーディネーターと共に、実施する。		
開催経費分担内容と概算額	日本側	内容	金額
		外国旅費	2,100,000 円
		謝金	12,000 円
		消耗品購入費 その他経費	100,000 円 610,000 円
(ザンビア) 側	内容	金額	
			0 円
(南アフリカ) 側	内容	金額	0 円
(タンザニア) 側	内容	金額	0 円



### 8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

#### 1 相手国との交流

派遣先 派遣元	日本 〈人／人日〉	ザンビア 〈人／人日〉	南アフリカ 〈人／人日〉	タンザニア 〈人／人日〉	アンゴラ (ザンビア側) 〈人／人日〉	計 〈人／人日〉
日本 〈人／人日〉					2/10	2/10
ザンビア 〈人／人日〉	1/6					1/6
南アフリカ 〈人／人日〉	(1/6)					(1/6)
タンザニア 〈人／人日〉						
アンゴラ (ザンビア側) 〈人／人日〉						
合計 〈人／人日〉	1/6 (1/6)				2/10	3/16 (1/6)
2 国内での交流 1/1 人／人日						

所属・職名 派遣者名	派遣・受入先 (国・都市・機関)	派遣時期	用務・目的等
1 相手国との交流			
ザンビア・オープン大学・講師・タシラ・ンバウエ	日本・大阪・大阪大学	2012年4月	日本で紛争・平和を研究する研究者と交流をし、情報共有・意見交換をする。また、日本の大学で南部アフリカの紛争・平和に関する講演会を実施する。
大阪大学・准教授・ヴァージル・ホーキンス	アンゴラ・ルアンダ・Augustinho Neto 大学	2012年9月	アンゴラで紛争・平和を研究する研究者と交流をし、情報共有・意見交換をする。また、平和維持・強制に関する講演会を実施する。
大阪大学・学生（博士後期課程）・ルイ・ファロ・サライバ	アンゴラ・ルアンダ・Augustinho Neto 大学	2012年9月	アンゴラで紛争・平和を研究する研究者と交流をし、情報共有・意見交換をする。また、平和維持・強制に関する講演を通訳する。
2 国内での交流			
大阪大学・博士後期課程・佐藤智恵（兼防衛大学校、研究員）	日本・大阪・大阪大学	2012年11月	「相手国との交流」で来日しているニュースリング教授とパネルを組み紛争・平和に関する発表を行い・ラウンドテーブルセッションに参加する。

## 9. 平成24年度研究交流計画総人数・人日数

### 9-1 相手国との交流計画

派遣先 派遣元	日本 〈人/人日〉	ザンビア 〈人/人日〉	南アフリカ 〈人/人日〉	タンザニア 〈人/人日〉	マラウイ、アン ゴラ (ザンビア側) 〈人/人日〉	合計
日本 〈人/人日〉		2/10			2/10	4/20
ザンビア 〈人/人日〉	1/6		1/5		1/5	3/16
南アフリカ 〈人/人日〉	(1/6)	3/13				3/13 (1/6)
タンザニア 〈人/人日〉		2/8				2/8
マラウイ、ボツワナ、 アンゴラ、モザンビー ク (ザンビア側) 〈人/人日〉		4/16	1/5			5/21
ジンバブエ (南アフリカ側) 〈人/人日〉		1/4				1/4
コンゴ (タンザニア側) 〈人/人日〉		2/9				2/9
合計 〈人/人日〉	1/6 (1/6)	14/60	2/10		3/15	20/91 (1/6)

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流する人数・人日数を記載してください。（なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。）

※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。（合計欄は（ ）をのぞいた人数・日数としてください。）

### 9-2 国内での交流計画

1/1 〈人/人日〉
------------

## 10. 平成24年度経費使用見込み額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	30,000	国内旅費、外国旅費の合計は、研究交流経費の50%以上であること。
	外国旅費	3,950,000	
	謝金	12,000	
	備品・消耗品購入費	100,000	
	その他経費	895,000	
	外国旅費・謝金等に係る消費税	0	
	計	4,987,000	研究交流経費配分額以内であること
委託手数料		498,000	研究交流経費の10%を上限とし、必要な額であること。また、消費税額は内額とする。
合計		5,485,000	

## 11. 四半期毎の経費使用見込み額及び交流計画

	経費使用見込み額 (円)	交流計画人数<人/人日>
第1四半期	812,000	2/11
第2四半期	3,197,000	14/60
第3四半期	504,000	3/11
第4四半期	474,000	2/10
合計	4,987,000	21/92